

## 目次

第16回大会関連	P1	中国研究・隣接分野の動向	P7
大会プログラム	P4	調査ノートから	P9
大会会場案内	P5		
国際シンポジウム報告	P7	事務局からのお知らせ	P14

---

### ■第16回大会関連

#### 日中社会学会第16回大会を

#### お受けするにあたって

中村則弘(第16回大会実行委員長・愛媛大学)

「光陰似箭」。日中社会学会大会ももはや16回を数えるまでとなりました。最初は、確か1989年6月、福武先生を迎えて開催されたと記憶しています。天安門事件が起こり、経済改革が始まるという新しい流れを前にして、先生が本学会への期待を込めて講演された内容をなつかしく思い出します。

さて、大会もいよいよ地方開催ができるまでになりました。今回はわざわざ愛媛までお越しいただくことでもあり、いくつかの試みをあわせて行ないたいと思っています。ただし研究会とエクスカージョンは、いわばオプションです。

(1) 特別講演は、イギリスと韓国にかかわる中堅の研究者から、中国社会を念頭においた報告をお願いしました。地域や文化、時代をクロスさせた面白い視点が浮かび上がるのではと思っています。

・報告者について

両報告者は著書・論文を多数執筆されておりますが、参考のために著書を各一部紹介しておきます。

・伊地知紀子『生活世界の創造と実践—韓国・済州島の生活誌から—』御茶の水書房,2000.

・高橋基泰『村の相伝—親族構造・相続慣行・世代継承—』刀水書房,1999.

(2) 大会事務局にもお願いして、大会前日に研究会を設定していただきました。これは大会報告からはみ出した愛媛大スタッフによるものです(研究会のお知らせは3頁をご覧ください)。

(3) エクスカージョンを大会終了後に行なうようにしました。せっかく地方で大会を開催するわけですから、中国にもゆかりのある、地域性のよく現れた土地をご紹介しますと思います。

先にも触れましたが、今回は初の地方開催となります。グローバルなどという言葉が世間で氾濫しつつも、こうした開催では参加者が極端に少なくなることが多いようです。地方開催校として、努力は惜しまないつもりですので、ぜひご参集ください。

日中社会学会大会に関わる開催校連絡先は下記の通りです。

愛媛大学 法文学部総合政策学科

中村則弘研究室

〒790-8577 松山市文京町3

TEL/FAX 089-927-9366(中村則弘研究室)

E-MAIL nakamura@ll.ehime-u.ac.jp

開催校は愛媛大学ですが、大会運営にあたっては、隣接する松山大学人文学部の永野武理事

に協力をいただいております。

### エクスカーションのご案内

大会終了後の7日(月)には、エクスカーションとして宮窪町と大三島町を訪問する予定です。宮窪町は、しまなみ街道に沿った芸与諸島の大島にあり、村上水軍の本拠地の一つです。同水軍は、中世において中国や朝鮮との民間交易の一翼を担っておりました。信長の本願寺攻めの折には毛利方を支え、秀吉の朝鮮侵略にも加勢しましたが、後に衰亡し、関係者の多くが社会的に厳しい扱いを受けた過去をもっております。歴史において日中の民間の結びつきを担った人々とその世界に、できる限り接近できるよう手配する予定です。

つづいて村上氏の氏神でもあった大山祇神社を訪問いたします。とにかく、国宝がざくざくあります。ただ、大島一帯を基盤とした村上氏本家の能島村上氏は、真宗の熱心な信者であったようですが。

予定時間 6月7日(月)

9:00 松山発 → 10:30 宮窪町着 同町にて水軍関連箇所の見学・人物訪問

12:30 同町にて昼食

13:30 宮窪町発 → 14:00 大三島着  
大山祇神社訪問

16:00 大三島発 → 18:00 松山到着

松山空港発時間(5月31日まで)

東京行き	19:10(ANA598)
名古屋行き	19:00(NAL 540)
伊丹行き	19:10(CRJ)
	19:40(JEX678)
福岡行き	19:00(JAL3598)

\*エクスカーションの交通費(大学公用車を使用予定)については、開催校事務局が独自に工

面します。ただし、食費や諸雑費については自己負担となります。

\*航空機の出発時間については、十分にご確認ください。

\*エクスカーションの参加者については、開催校事務局の方でJR松山駅、松山空港までお送りいたします。

### その他

大会期間中には、道後温泉(愛媛大学から徒歩15分)、道後公園(河野氏湯築城跡、中世史跡)、宝厳寺(一遍上人、遊郭跡)などをご案内するつもりです。また、時間をみつけて松山城(重文)、二の丸史跡などを探索されるのも一興です。時間などは、大会の折にご連絡いたします。

### 宿泊について

ホテルの予約は各自でお願いします。松山のビジネスホテルでは、

- ・ 全日空ホテル(089-933-5511)
- ・ JALシティ松山(089-913-2580)
- ・ チサンホテル松山(089-943-1011)
- ・ 東急イン(089-941-0109)
- ・ 東京第一ホテル松山(089-947-4411)

などが手堅いところです。また、共済宿泊所以外では若干値がはりますが、道後温泉に宿泊されるのも結構だと思います。ただし、重要文化財の道後温泉本館は市営の銭湯です。

安価での宿泊をご希望の方には「愛媛大学職員クラブ」の宿泊を斡旋いたします。5日と6日の宿泊分については、予約できる限りの部屋を押さえたので、遠慮なくご連絡ください。15人程度は宿泊可能です。宿泊代は2000円以下だったと記憶しています。大学のそばにあり設備・環境はなかなかです。

なお、4日の宿泊については、事務局の会議のためにほとんど満室でした。キャンセル待ちは入れて有りますが、もしだめな場合、この日

の宿泊をあわせて希望される方には、開催校事務局で、安い宿泊先の手配をいたします。こちらも遠慮なく申し出てください。

電話またはファックスにて所属、電話番号、宿泊希望日時、朝食を希望されるかどうか(500円程度)、返信連絡先(ファックス番号またはメール・アドレス)を下記までお伝えください。予約については、単純に早いもの勝ちです。連絡先：電話またはファックス

089-927-9366(中村則弘研究室)

E-MAIL nakamura@ll.ehime-u.ac.jp

### 懇親会

「にきたつ庵」(089-924-6617)で開催する予定です。瀬戸内の海の幸が堪能できます。参加費は3000円で、院生の方々などには、何らかの割引方法を思案中です。

なお、参加人数などの関係で会場変更も有りえることを、あらかじめご了承ください。

### ■第16回大会の開催について

飯田哲也(大会担当理事・立命館大学)

第16回大会を以下のようなかたちで愛媛大学で開催します。愛媛大学からは2つの特別報告を企画していただき、シンポジウムについては新しいテーマとして「現代中国の生活変動」を設定しました。いわゆる「市場経済」の導入にともなう国民生活の変化が1990年代後半頃からかなりはっきりと現れてきたと思われる現代中国にあって、その具体的実態を捉えて考えることがきわめて大事な段階に来ているのではないかと思います。一般自由報告もまた興味あるテーマの研究結果として期待されます。昨年からは、参加できなかった会員も大会での報告・論議について共有ができるようにと、報告・論議の内容を「ニューズレター」に載せることにしました。会員の多数の参加により、実りある大会になることを念じています。

#### 〈第16回大会開催要項〉

日時：2004年6月5日・6月6日

会場：愛媛県松山市・愛媛大学

参加費：一般2000円 学生1000円  
非会員2000円

懇親会費：3000円

(大会プログラムは4頁、会場地図5頁に掲載)

### ■日中社会学会研究会のご案内

中村則弘(第16回大会実行委員長・愛媛大学)

会場：愛媛大学法文学部本館中会議室

時間：6月4日(金) 14:00～

第一報告 陳捷(愛媛大学)

「中国農村における  
社会経済システムの変容」

第二報告 中村則弘(愛媛大学)

「台頭する私営企業主と  
変動する中国社会」

陳捷会員は中国農村の社会経済システムの変容を、政権末端の動きや私営企業の特質に切り込みながら報告します。こちらは、中国での学術奨励研究として採択されている課題でもあり、いま中国で何が求められているのかを的確に知ることができる内容となっています。

中村の報告は20年近く続けてきた个体戸、私営企業主研究の集大成ともいえるものです。生活指針と地域性、民衆意識とのかかわりから私営企業主の形成過程や中間組織のあり方をとらえようという内容となります。

\*この研究会は、愛媛大学比較経済研究会、愛媛大学総合政策学会との共催となります。

# 日中社会学会第16回大会プログラム

6月5日(土)・6月6日(日)

会場 愛媛大学

## 第1日 6月5日(土)

12:30 受付

### 13:00～15:00 特別報告(工学部講義棟3F 33番教室)

伊地知紀子(愛媛大学) 「韓国における生活誌の研究からみる中国社会(仮)」  
高橋基泰(愛媛大学) 「イギリス農村における家系の研究からみる中国社会(仮)」  
話題提供者 中村則弘(愛媛大学)

### 15:20～16:50 書評セッション(工学部講義棟3F 34番教室)

首藤明和『中国の人治社会』日本経済評論社 2003年  
話題提供者 永野 武(松山大学)  
話題提供者 南 裕子(農村開発企画委員会)

### 17:00～18:00 総会(工学部講義棟3F 33番教室)

18:10～ 懇親会(にきたつ庵:予定)

## 第2日 6月6日(日)

9:00～ 受付

### 9:30～12:00 一般自由報告(工学部講義棟3F 33番教室)

中国郷村社会に於ける「公」についての考察  
—林語堂と清水盛光と平瀬巳之吉の視点を中心にして—  
宮内 紀靖(瀋陽師範学院)  
計画経済体制時の中国における大学卒業生の職場配置の実態  
陳 瑞娟(広島大学大学院)  
中国の家族に関する数量的分析  
—世帯規模と消費構造から見る社会分化の現状—  
晨 光(神田外語大学)  
「新しい家族主義」の考察  
—現代中国における親子関係研究に向けて—  
鈴木未来(立命館大学)

### 13:30～17:00 シンポジウム〈現代中国の生活変動Part I〉(工学部講義棟3F 34番教室)

報告1 中国の家族と伝統—地域的多様性に着目して—  
東 美晴(流通経済大学)  
報告2 中国家族の教育戦略—都市家族と農村家族の比較—  
富田 和広(県立広島女子大学)  
報告3 中国都市コミュニティにおけるリーダーシップ  
李 妍焱(駒沢大学)  
討論者 佐々木 衛(神戸大学)  
討論者 過 放(桃山学院大学)

＜書評セッション 文献案内＞

首藤明和著『中国の人治社会 もうひとつの文明として』

(日本経済評論社, 2003. 5) 価格: 3000 円 (税別) ISBN: 4-8188-1471-7

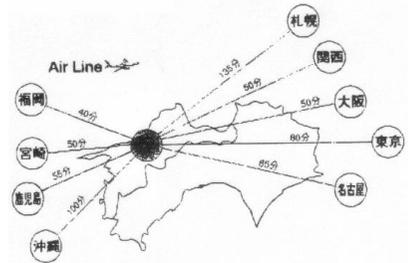
〔目次〕

- 序 章 中国の民衆生活にみる視点
- 第1章 「人間関係優先主義」からみる中国農村
- 第2章 「非規範村」としての調査村落
- 第3章 中国村落の存立構造にみる個人的性格
- 第4章 〈包〉的構造——人間関係優先主義における組織原理
- 第5章 后台人と民衆を結ぶ身辺的世話役——〈包〉的構造のなかの親族
- 第6章 親族の協同と離反と——世話役の個人的資質に左右される親族関係
- 終 章 中国社会のダイナミズム——人間関係優先主義の可能性を探って

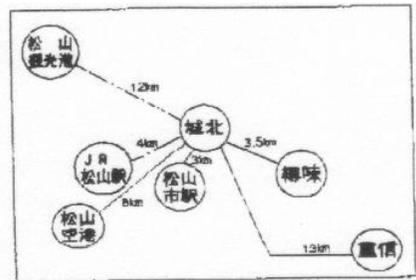


＜会場案内＞愛媛大学（城北地区）〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

- ・受付 総合研究棟2 正面玄関 ホール(1F)
- ・会場 工学部講義棟 3F 31番 32番 33番 34番 35番教室
- ・大会本部 総合研究棟2 3F 国際比較調査準備室
- ・参加費 一般:2000円 学生:1000円 非会員:2000円
- ・懇親会費 3000円



＜会場周辺図（松山市内）＞



・交通アクセス

- 松山空港から
- ・伊予鉄バスをご利用の場合
  - JR松山駅まで 空港リムジンバス「JR松山駅前」下車
  - 松山市駅まで 空港リムジンバス「松山市駅」下車
- JR松山駅から
- ・伊予鉄道市内電車をご利用の場合

- ・受付 総合研究棟2 正面玄関 ホール (1F) 5分
- ・会場 工学部講義棟 3F 31番～35番教室
- ・大会本部 総合研究棟2 3F 国際比較調査準備室
- ・研究会会場(6/4) 法文学部本館2F 中会議室



## ■国際シンポジウム報告

### 日中少子高齢化の社会保障と 経済への影響及び対策に関する シンポジウム

袖井孝子(お茶の水女子大学)

2003年11月2、3日に上海社会科学  
院において、国際交流基金の後援によって上  
記のようなシンポジウムが開催された。報告  
者は、中国側は鄒滄萍(人民大学)、田雪  
原(中国社会科学院)、左学金(上海社会  
科学院)、桂世勳(華東師範大学)、李健  
民(南開大学)、孫常敏(上海市人口と計  
画生育委員会)、王桂新(復旦大学)。日本  
側は、小川直宏(日本大学)、高山憲之(一  
橋大学)、小川全夫(九州大学)、袖井孝子(お  
茶の水女子大学)、服部真(読売新聞社)で  
あった。

高齢化率が7%に達して高齢化社会入り  
をした中国では、21世紀半ばにはそのピー  
クを迎えると予測されているが、日本に比べ  
れば高齢化率ははるかに低い。これまで一人  
っ子政策は、もっぱら経済発展の見地から捉  
えられてきたため、高齢者扶養の問題に人々  
が気づき始めたのは最近のことにすぎない。  
扶養構造は、1人の子どもに両親と4人の祖  
父母という「421」から、曾祖父母までが  
生存する「821」にまで変化してきている。  
一人の子に時間・金・労力のすべてを注ぎ  
込む結果、「子ども重視、高齢者軽視」の傾  
向が生じ、伝統的な敬老・親孝行精神は薄れ  
つつある。とりわけ社会保障制度が整備され  
ていない農村では、高齢者の扶養問題が深刻  
化している。解決策としては、一人っ子政策  
の見直し、人口移動政策の緩和、社会保障制  
度の拡充、家族扶養の強調などがあげられる。

高齢化が経済社会に与える影響や中国社会  
の将来について、高齢の報告者はきわめて楽  
観的だが、若い報告者はかなり悲観的であり、  
高齢化先進国である日本の経験から学びた  
いという姿勢が伺われた。

## ■中国研究・隣接分野の動向

### ——社会福祉学

#### 中国における

#### ソーシャルワーク専門教育(1)

包敏(広島国際大学)

ソーシャルワーク(中国語では社会工作)  
は学問として欧米社会から始まり、今日まで  
すでに百年以上の歴史になる。中国における  
ソーシャルワーク専門教育の歴史は比較的短  
い。歴史的な原因により中国においてソーシ  
ヤルワーク専門教育は長い間、中断された。  
1986年教育部(日本の文部省に当たる)が北  
京大学等教育部直属の四大学でソーシャルワ  
ークと管理の専門の設置を許可し、中国のソ  
ーシャルワーク教育が再開された。本文は中  
国におけるソーシャルワーク専門教育の歴史、  
現状と問題について紹介をしたい。なお、本  
文は中国大陸におけるソーシャルワーク専門  
教育を対象にしているため、香港と台湾のソ  
ーシャルワーク専門教育については本文には  
含まれない。

#### ◎中国における

#### ソーシャルワーク専門教育の歴史

中国社会の発展の特殊性を勘案し、ソーシ  
ヤルワーク専門教育の発展が中国においては  
他の国と違うプロセスをたどってきた。以下  
三つの段階にわけて論じたい。

#### 1) 1949年までの中国のソーシャルワーク 専門教育

ソーシャルワークは社会学とともに中国に

伝わってきた。アヘン戦争後、帝国主義列強による経済、文化的な侵略が強化された。教会の活動はキリスト教の布教だけでなく、慈善事業や文化事業にまで広がり、ミッションスクールが開設され、外国への留学生派遣事業なども行われた。中国からアメリカにわたり最初にソーシャルワークの研究をはじめた留学生は朱友漁氏である。彼は宣統三年

(1911)、コロンビア大学の社会学部で哲学博士号を取得した。博士論文のテーマは『中国の慈善事業』である。帰国後、上海にある聖約翰大学で社会学の教授をつとめた。1921年アメリカ人D. H. (Daniel Harrison Kulp II) 教授が私立上海滬江大学で社会学部を設立し、1917年朱氏の主導により、滬東公社をつくった。上海楊樹浦一帯の労働者コミュニティでソーシャルワークの仕事に携わった。業務内容は職業指導、職業紹介、衛生運動から家庭改良や宗教活動にまで及んだ。

1920、30年代、中国でソーシャルワークに関連する専門団体が相次いで発足された。1913年11月、北京青年会活動家の発起により、ソーシャルサービスを主旨として、北京社会実進会が設立された。1919年11月、北京の北京社会実進会が旬刊『新社会』を発行し、鄭振鐸、瞿秋白と許地山などが編集と執筆を担当した。この中には、社会改造、ソーシャルサービスの提唱、社会問題の検討、社会学の紹介、貧民教育の研究と社会実情の紹介などの文章が数多く見られる。この他、北京社会学会、中華教育文化基金理事会社会調査部等の団体がソーシャルワークの推進に関わった。1922年北京の燕京大学社会学部が設立された際、理論社会学と応用社会学の二学科が設置され、ソーシャルサービス専門の人材育成に力が入れた。1925年同学部は社会学与社会服務系(社会学とソーシャルサービス学部)に改称され、引き続き実務と応用に重きを入

れた。ケースワーク、精神健康ソーシャルワーク、グループワーク、社会行政等14の科目を開講し、各ソーシャルサービス機構、団体にソーシャルワーカーを供給した。1948年以前、南京金陵大学が社会学部にソーシャルワーク組を設置した。1948年、単独の社会福祉行政学部が設置された。ソーシャルワークの4年制学部生を募集する、中国唯一のソーシャルワーク学部であった。その他、蘇州の東呉大学、金陵女子文理大学、復旦大学、山東齐鲁大学、北京の清華大学と輔仁大学等の大学もソーシャルワーク、社会福祉行政等の科目を設置した。この間、ソーシャルワーク理論研究の成果が相次いで出版された。例えば、胡均の『社会政策』、馬欽氷の『都市政策論』、馬君武の『失業人及貧民政策救済』などである。中には都市と農村での実地調査を行ったうえ、後の中国ソーシャルワーク学科に大きな影響を与えた著作もある。例えば、中鼎鄂の『北平一千貧民之研究』、麦績曾の『北平娼妓調査』、嚴景耀の『北平犯罪の社会分析』、李景漢の『中国農村問題』、陶孟和の『社会と教育』、許世廉の『社会計画と鄉村建設』などである。欧米諸国の社会事業の実態を紹介した著作なども中国語に翻訳された。晏陽初、陶行知、梁漱溟、李景漢などの教育家が社会教育事業を中心に鄉村社区(コミュニティ)の改造、平民教育の展開、鄉村建設の推進実験を行ない、近代中国のコミュニティワークのスタートを切った。彼らの従事した事業は中国の知識人が民衆を喚起し、鄉村を改造し、中国を救う実際の行動であった。だが、農村経済の破綻の危機を救うことができなかった。

20世紀前半の中国ソーシャルワークは歴史が短く、相対的に遅れていたが、社会学部やソーシャルワーク専攻の設置、社会調査、ケースワークとグループワークの重視、底辺層の民衆生活への関心、大学でのソーシャルワ

ーカー専門家の養成などが中国のソーシャルワーク専門の科学化、職業化と近代化の基礎を築いたのである。

## 2) 1949年から1980年代半ばまでの

### 中国のソーシャルワーク専門教育

1949年以降、中国は社会主義の道を歩んだ。国家全体が高度に組織され、集中した管理体制に置かれた。旧社会制度が残した社会問題に対し、社会福祉的な政策と措置をとった。主に労働者に対する社会保険、一般国民向けの社会救済、社会福祉と軍人及び家族への優待慰問などである。法律と条例をつくり、労働者の權益を基本的に保障した。1950年、「革命軍人犠牲病故褒恤条例」等5つの優待慰問条例、1951年2月、政務院（現在の國務院）による「中華人民共和国労働保険条例」等が公布された。農村では土地改革を通じ、農民に土地を与え、互助合作運動により、集団所有制経済をつくった。

1952年院系調整（つまり単科大学と学部 of 調整）により、社会学部と社会福祉行政学部が廃止され、社会学とソーシャルワークの科目が大学の時間割から消えた。これにより、大学でソーシャルワーク教育の復活まで実に34年かかった。当時廃止の主な理由は社会主義の国ではいわゆる社会問題はそもそも存在せず、社会学とかソーシャルワークとかは資本主義国家に必要なものであるという誤った認識に基づくものである。実際、社会主義にも犯罪、貧困、失業、自然災害などにより生じた社会問題を有する。これらの社会問題がある以上、ソーシャルワークが不可欠になる。この30年以上にわたるソーシャルワーカー不在の期間、中国の実務部門には前述の問題に対処する業務を行ったスタッフがいたが、正式な専門訓練を受けていなかったため、仕事の質が非常に低いものであった。これも長年にわたり、ソーシャルワーク教育を否定した

結果だと言えよう。

（続きは次号に掲載いたします：編集担当）

## ■調査ノートから

~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/

### 青浦フィールドノート・18

#### —大衆芸能(1)—

富田 和広（県立広島女子大学）

~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/~/

今回から、大衆芸能についての調査結果を掲載します。中国語では「群衆文芸」といいます。その内容や形式は、家庭での昔話、「茶館」での「曲芸」（かたりもの、うたいもの等）、お祭りでの様々な出し物など多種多様で、地方色豊かなものです。茶館は、本来的には喫茶店なのですが、実際には、雀荘であり、ライブハウスであり、総合演芸場であり、そして恐らく社交場でもあったと思われます。調査地では、ほとんどの茶館は、十字路や橋のたもとに、雑貨店とともにあり、鎮には必ず必要なものだと考えられます。そして農村においては、家庭外での日常的な娯楽は、すべてここに集中していたと思われます。そこで演じられる芸能は、安価で誰でも気軽に楽しめるものばかりでした。この芸能は、そこで暮らす人々に大きな影響を与えていたに違いありません。

また、「廟会」や「出会」も人々の大きな楽しみの一つでした。廟会は、上海語で「ミャオウエイ」と言いますが、全く同じ発音で「廟界」というものがあります。廟のテリトリーを示すもので、調査地の人々は、自分はこの廟界か分かっていました。氏神（産土神）と氏子の関係と同じでしょう。出会は、廟から像を担ぎ出し、廟界の中を何泊かしながら回っていきます。その行列は、他の廟界を断

りになしに通ることはできません。

茶館、廟、廟会、廟界、そして芸能。その地域をすっぽりと包むものが、ここから見えてくるような気がします。

なおここでは、芸能以外にも廟に関する記述を掲載しておきます。

## 鎮と茶館

(郷老幹部からの聞き取り)

この辺りの鎮は、B、X、L Z (X鎮の南)、L家角(雑貨店と茶館があった。)

S鎮はBより大きかった。廟会はあるが遠いから行かなかった。

(老幹部の妻からの聞き取り)

解放前、結婚前(数えて16歳)にS鎮にパーマをあてにいて親に怒られた。(東が聞き取り)

(郷老幹部からの聞き取り)

鎮には用がない限り行かなかった。金持ちは2、3日に1回か1週間に1回行く。

解放前、L ZはXより大きくBより小さい鎮だった。店が4つか5つあった。雑貨店、精米所、米屋、茶館、魚屋など。1960年代からX鎮が大きくなった。その後、L Zは計画でX鎮に移した。

## 茶館

茶館はBに6軒、Xに1軒、L Zに2軒、L家角に1軒あった。

## F家窟とS家台

(以前茶館に勤めていた人、芸能好きの老人からの聞き取り)

趙巷郷F家窟はBと同じぐらいの町だった。川に橋がかかり河東と河西に茶館が一つずつあった。家から1.5kmの所にあった。また500mぐらいの所にS家台という小鎮があり、ここにも茶館が3つあった。店が何軒かあった(肉屋、精米所、雑貨店)。X鎮の茶館に行くこともたまにはあった。X鎮はF家台より

小さかった。

## B鎮での廟会

B鎮に買物に行くこともあった。B鎮には4月の廟会以外には遊びに行くことはなかった。旧暦の4月の6～10日に廟会が開かれていた。8日がメインで、一番賑やかだった。廟に行つて焼香をする。出店もあった。服、帽子、靴、農機具、斧、かなづちを売っていた。農作業に関するものはみなあった。近所に住んでいる商売人や職人が集まってきた。廟会には雑技(綱渡り)、猿回し、皮影戯、武術団(山東人が多かった)、「灘簧」(滬劇の前身)などが、廟のあったところで行われていた。芸人は地元の人ではなかった。

## 朱記茶館

(以下、B村供销社經理からの聞き取り)

1958年、公私合管後、隣の茶館と交換された。元々茶館は大きくて、客が減ったので、雑貨店と交換した。

B鎮には茶館が6つあった。朱記茶館が一番大きかった。そこにだけ、書場があった。朱記以外は解放後につぶしてしまった。客が減つて閉めてしまった。

解放前の客には、昔はいろんな年齢の人がいた。上海への中継点だったので、「米販子」が来ることも多い。若い人もきた。

朝3時頃に開き、6時まで開いている。夜は6時から8時か9時まで開いている。夜は「説書人」(講談師)、「灘簧」をする人がいた。演芸は昼過ぎからもある。営業は1日中で、お茶は当時の金で5～8銭だった。これはとても安かった。

農村の老人の客が朝3時から来て、6～7時までいてる。それから朝ご飯を食べに帰る。

説書、灘簧は殆ど毎日ある。お茶5銭、聞くお金は20銭追加する。有名な人(芸人)でも値段は20銭。毎日聞いても問題のない金額だった。どうせ話は一日で終わらない。説書

が始まると、しばらく何日かは（10～15日。芸人のレベルによって異なる）説書。終わると別の灘簧が始まる。

自己紹介の後、題目について語る。1回に2時間。途中5分くらい休み。夜は違う題目で2時間。昼夜、曲種は同じ。同じ芸人。蟠龍には読書、灘簧の芸人はおらず、上海などから呼ぶ。

解放前、麻雀、揺攤（ヤーテー）やさいころ等、色々な種類の賭博をしていた。おもに茶館でやられていた。

茶館で酒を飲んではいけない。説書などをする時には、有名は芸人の時には百人以上の客が集まる。その時は外にまで客がいた。説書の人気題目は武侠もの。『水滸』、『三国』。

灘簧では、婚姻と関係のあるものが人気があった。これと滬劇の内容はよく似ている。特に滬劇が人気があった。滬劇では『陸雅臣売娘子』が人気があった。

解放前、女性が茶館に来ることは禁止されてはいなかった。親が娘に茶館に行くなどということが多かった。来る女の人はだいたい年齢が高い。

ここは鎮だから、芸は一年中やっている。農繁期は少し客が減る。老人には関係ない。

宣伝はする。どんな芸人の時でもする。芸人によって宣伝の量は変わるかも知れない。誰がどんな題目でいつからいつまでどこでやるか紙に書いて貼る。近くのここより小さい町に貼りにいく。客は2kmぐらいの範囲から来る。

年齢による好みの違いはない。

周立春をテーマにしたものはなかった。

内容に緊張があるものが好き。

灘簧の中には「分家」をテーマにしたようなものはなかった。灘簧なども10日以上した。滬劇も同じ。

解放前、農民から芸人は軽蔑されていた。

皆、専門だった。目の悪い芸人もいた。

解放前、評弾を上海から呼ぶことが多かった。女が多かった。一人は三線を弾いている。灘簧や説書には女性は少ない。説唱は昔はなかった。

解放前、灘簧は役者が少ないので、舞台装置などはなかった。

ほとんどの人が好きだった。

娯楽はこれくらいだった。

「弾詞」と評弾は同じ。「弾詞」にも語りと歌がある。「評話」は評弾と区別していた。「評話」なら、武侠の歴史もの、評弾と灘簧は同じ内容を演じる。評弾だと蘇州の話、灘簧だと上海の話をする。芸人も別々。表現方法も異なる。聞いて分かりやすいので、評弾より灘簧の方が好まれた。回数も灘簧の方が多い。内容・テーマには大きな違いはない。

上海語と言うものは解放前は確立していなかった。灘簧の場合も演じるときはこの地方の言葉を使う。説書も蘇州の言葉で演じた。

灘簧は2人10人（普通は2、3人）。

解放前、説書、灘簧、評弾の順で多かった。茶館では説書が一番多い。

舞台装置はない。時間が来れば、茶館に入ってきて、客が少なくても始める。「醒木」をたたいて話を始める。いいところ来ると拍手をする。いい芸人だと静かに聞いている。

同じ題材はだいたい3年以内はやらない。

金は茶代と一緒に茶館に払う。

X鎮の茶館には書場があり、毎日何か演じられていた。そのほかの茶館でやられることはなかった。他の鎮でもない。「出会」（祭り）や結婚の時に芸人を呼ぶときもある。結婚の時に必ず打唱を呼ぶわけではない。

廟会では灘簧は演じられたが、説書などはやられなかった。灘簧は5～6平方メートルの簡単な舞台を作る。

「売唱」も少なかった。人通りの多いとこ

ろでやった。但し十字路なのではない。

今の書場で昔の灘簧をやっている人も少しいる。めったにない。(つづく)

## ■事務局からのお知らせ

### □平成16年度外務省「日中知的交流支援事業」企画書等提出招請について

外務省より標記の招聘が来ました。詳しくは以下の「外務省ホームページ」の「お知らせ」欄をご覧ください。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/shocho/c-hotatsu/others/04041902.html>

### □理事会報告

#### ・選挙権について

選挙前に選挙権について以下の2点が確認されました。

**1.会長の理事としての被選挙権について**  
理事として2期連続選出された場合、そのある期間、会長を務めても、次の選挙

では理事としての被選挙権はない。

#### **2.連続2期を越える役員の被選挙権について**

理事を連続2期と務めても、監査としての被選挙権はある。同様に監査を連続2期務めた場合も、理事としての被選挙権はある。

#### ・団体会員用の入会申込書について

団体会員用の入会申込書の記入事項を以下の通り決定しました。

団体名(ふりがな)、団体代表者役職・氏名(ふりがな)、団体所在地(電話、FAX、E-MAIL)、紹介会員、研究会などの連絡方法

### **学会公式ホームページをご覧ください！**

日中社会学会では公式ホームページを開設しています。会員の方々へはもちろんのこと、会員外の方々へも学会活動の最新情報を発信しています。アドレスは下記のとおり。ぜひご覧ください！

[http://www.geocities.co.jp/ CollegeLife-Labo/5938/](http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/5938/)

### **☆☆☆〈編集担当からのお知らせ〉☆☆☆**

「日中社会学会ニューズレター」では、会員の皆様の中国研究に関する情報や「調査ノート」、最新の研究動向紹介（文献・論文・調査報告書等）などを幅広く募り、研究交流が繰り広げられる紙面づくりに努めております。

また、新しい企画なども大歓迎です。随時受け付けておりますので、どしどしご提案ください。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

記事に関するお問い合わせは下記の編集担当幹事までよろしく願います！！

鈴木未来 E-mail:suzuki-m@ss.ritsumei.ac.jp

首藤明和 E-mail:shuto@soc.hyogo-u.ac.jp

## ■編集後記

新年度第一弾のニューズレターをお届けします。日中社会学会、規模の面から見ると、とても「大・学会」とは言えませんが、そこはベンチャー的学会の強み、俊敏性を発揮して、会員諸氏のご参集のもと、特徴ある学術交流活動を展開していきたいものです。

第16回大会関連の記事でお知らせしましたように、今大会は初の四国（松山）開催となります。大会前日の研究会開催や、エクスカージョンの実施など、四国開催という地の利を生かした新しい企画が提供されています。

また、たびたび誌面でお伝えしてきましたように、IIS（世界社会学機構）北京大会もいよいよ間近に迫ってまいりました。本学会では3つのセッション主催を通じて、国際的な学術交流機会の提供にも努めております。

本学会が、独自の特色を打ち出しつつ、絶えず新しい活力を生み出せるよう、ニューズレターの誌面づくりも試行錯誤が続きます。会員諸氏の誌面への一層のご参加をお待ちしております（首藤）。

---

### 日中社会学会ニューズレター No.41

発行：日中社会学会事務局  
〒734-8558 県立広島女子大学  
国際文化学部富田和広研究室  
e-mail:tomita@hirojo-u.ac.jp  
tel:082-251-9851（研究室直通）  
fax:082-251-9405（大学事務室）  
郵便振替口座番号 00140-9-161801

#### ◎編集担当

鈴木未来 (suzuki-m@ss.ritsumei.ac.jp)  
首藤明和 (shuto@soc.hyogo-u.ac.jp)

発行日：2004年5月